

部会議事概要集

令和4年 3月

目次

・まちづくり構想部会

7/ 8 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第32回部会）議事概要・・・1

11/11 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第34回部会）議事概要・・・7

1/13 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第35回部会）議事概要・・・11

※第33回まちづくり構想部会（9/9）は書面開催のため議事概要はありません。

・新大阪駅東口まちづくり部会

12/23 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会

（第5回新大阪駅東口まちづくり部会）議事概要・・・14

2/24 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会

（第6回新大阪駅東口まちづくり部会）議事概要・・・20

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第32回部会）議事概要

日 時：令和3年7月8日（木）午後7時～午後8時10分 場 所：東淀川区役所出張所3階多目的室
【議事】 1 開会 2 部会長あいさつ 3 議題 (1) 今年度の進め方について (2) 活動報告及び意見交換 (3) リモート会議に向けたオンライン環境調査結果 (4) その他 4 その他 5 閉会 <<配付資料>> ・ 議事次第 ・ 資料-1 令和3年度の進め方 ・ 資料-2 活動報告 ・ 資料-3 まちづくり構想部会（リモート会議）に向けたオンライン環境調査

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) 今年度の進め方について

(事務局)

- ・ 議題の1つとして、今回は自由席で進行させて頂く。後ほど、座席について意見を頂きたい。
- ・ 令和3年度の構想部会については6回の開催を予定していたが、緊急事態宣言下であったため5月の構想部会の開催を見送った。
- ・ このまま、例年通り2ヶ月に1回の開催で進めた場合、全5回の開催の予定となる。ただし、5月の部会は見送りという形にしたため、必要であれば6月、8月といった開催予定で無い月に開催し全6回とすることも考えられる。これについても意見を頂きたい。

(部会長)

- ・ 座席については議題終了後に意見を貰うようにする。
- ・ 開催回数については、今後の状況次第で決めるべきではないか。

(事務局)

- ・ 承知した。開催回数については、今後の状況から必要なタイミングで議題とする。
- ・ 部会の進め方について、部会員の方に今年度中のアクションプランの作成に向けて、構想部会をどう進めていくか考えていただきたいと思っている。1月に実施したアンケートの振り返りを含めて説明する。
- ・ 平成30年度に策定した「東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想」の浸透や認知がされていないことやアクションプランの策定状況が順調でないこと。また、ゴールや目標が見えてこない

といった回答があった。

- ・その一方で、協議会や部会の活動が有効である、各地域との意見交換は有意義である、考える場・話し合いの場が必要といった回答があった。また、コロナ禍でも開催をするため、オンラインでの意見交換の場を作った方がいいのではないかと前向きな回答もあった。
- ・3月の構想部会の中では、令和3年度の目標がはっきりしていない、協議会をいつまで続けるのかという意見があった。
- ・久教授からは、アクションプランができていない地域は、アクションプラン作成が共通の目標になる。アクションプランができていない地域は実践段階であり、アクションプランをフィードバックすることが一つの目標なるのではないかとアドバイスを頂いた。アクションプランができれば終わりではなく、プランの実行、評価をすることで地域がより良くなるというアドバイスを頂いた。
- ・しかし、コロナ禍により地域での会議といった話をする機会が、なかなか設けることができない難しい状況が続いている。
- ・事務局としても地域内の課題や困りごとについて、意見交換や話し合いをすることが、各地域の問題解決に繋がると考えている。構想部会で部会員同士の意見交換、話し合いを一つの目標として進めていきたいと考えている。
- ・部会の進め方として、活動状況、進捗状況を確認することは議題として挙げているが、他の議題をどうするかも議論して貰いたいと思っている。
- ・部会の目標だけではなく、各地域の今年度の目標を立てて貰いたいと思う。各地域で立てた目標に向かい、どのように進めていくのかも各地域で決めることが今年度のアクションプラン作成という目標に繋がっていくのではないかと考えている。この1年間の部会で何をするかを議論し、各地域の今年度の目標を立て、目標の達成に向けた具体的な取り組み内容を決めて頂きたいと考えている。

(部会長)

- ・各地域の取り組みを活性化するためには情報が一番欲しいと思う。東淀川西部地域以外での地域活動の実践例、珍しい取り組みといった情報提供を事務局にはお願いしたい。また、東淀川区、大阪市のまちづくりについても情報提供をお願いしたい。連続立体交差等の事業については、部会員に情報提供し、各地域に持ち帰り議論するといった形式にしたい。この議題を部会で議論するというやり方は難しいように思う。
- ・アクションプラン作成に向けた議題も部会内で議論して考えて下さいではなく、事務局から出すべきである。
- ・情報提供だけでなく、交流も構想部会の大事な機能だと思う。

(部会員)

- ・前年度のまでの流れを把握して貰いたいと思う。
- ・本部会員は地域活動協議会部会員でもあり、地域内で実際に動いている方が中心である。また、地域活動協議会には、町会長、社協会長といった運営主体の代表者が出ているが、代表者と綿密に連絡を取り合っている地域は少ないという印象を持っている。
- ・地域活動を実際に現場で行っている方と予算を決めたりする運営側には温度差がある。だからこ

そ、我々部会員が構想部会に来ている。この温度差がアクションプランを作る難しさに繋がっている。運営側には、我々程の温度感はないことを感じて頂きたい。

- ・表現がおかしいかも知れないがイベントや取り組みに関して、現場同士の情報共有は楽しいと感じている。コロナ禍の対応についても、各地域のやり方や工夫があるので勉強になる。
- ・地域のアクションプランを作るには現場の声をまとめ上げる必要がある。地域全体でまとめて決める部分を部会員のあなたがやりなさいというのは違うと思う。

(2) 活動報告及び意見交換

意見交換要旨

【部会の進め方について】

- ・西淡路地域と淡路地域には過去に作成されたビジョンがある。西淡路地域と淡路地域の人間が参加している別の会議の場で、西淡路地域と淡路地域の2つの地活エリアで一緒に新しいビジョンを作れないかと意見が出た。しかし、運営側の人間からは温度差を感じるような反応だった。
- ・啓発地域にも過去に作成されたビジョンがあるので次回以降の部会で誰かに来て頂き説明願いたい。
- ・部会の進め方の案だが、次回から各地域3分から5分程度で部会の中の2ヵ月間での出来事やイベントの開催報告をすることで情報交換になると思う。

【情報提供について】

(部会長)

- ・区役所の隣の土地に新しく入る事業者について、事務局で何か情報を把握していないか。

(事務局)

- ・把握していない。

(部会長)

- ・その土地に次はどういった事業者が入るといったことを情報提供して貰いたい。

(部会員)

- ・構想部会で提供して貰った情報を地域に持ち帰れるようにしたい。

(部会員)

- ・事務局は把握していないとのことだが、区役所は把握しているのか。

(事務局)

- ・事務局では把握していないが、別の部署が情報を持っている可能性はある。

(部会長)

- ・噂レベルの話だが、ショッピングモールができるなら働きたいといった声も地域では出ている。そういった情報も地域での良い話題になるので、部会で情報提供をしてもらいたいと思う。

【地域の活動状況】

西淡路地域

- ・朝の子ども食堂は7月の第1週から再開し、夜の子ども食堂は7月の第3週から再開予定である。

東淡路地域

- ・地域内で初めての地域食堂がオープンした。この食堂は地域内の人間もボラティアスタッフとして参加することが可能である。

新庄地域

- ・敬老大会を再開予定である。
- ・学校のグラウンド開放は7月の第1週から再開している。

下新庄地域

- ・地域内の公園でこいのぼりを設置するイベントを行った。

豊新地域

- ・7月31日に子どもお弁当の販売イベントを実施予定である。

【アクションプランについて】

(部会員)

- ・地域内のスーパーが閉店予定でその跡地を地域の高校が買うのか、良い立地なのでワンルームマンションが建つのかといった話が地域内でされている。こういった情報を他の地域や事務局からも出して貰えればお互いに情報共有できるので有意義だと思う。また、スーパーの跡地のような大きな土地の話は、保健福祉計画に記載できていないので、保健福祉計画のブラッシュアップが必要だと考えている。

(部会員)

- ・アクションプランの作り方という点で大きな土地、跡地が今後どうなるのかといったハード面の話は、アクションプランの策定でも重要だと思う。まず、ファミリー世帯が増えてほしいやワンルームマンションでもいい、若い学生が来て欲しいといったビジョンを地域で整理する必要があると思う。地域の将来像、10年後20年後をどう選ぶかが、アクションプランでは必要だと思う。
- ・地域特性の整理、ソフト面の整理も必要だと思う。地域の活動にはどういうものがあり、できている分野、足りない、あまりできていない分野は何かといった情報を整理する。情報を整理することで他の地域より頑張っている分野、頑張れていない分野が見えてくる。それを基にどの分野をアクションプランで伸ばすのかといった議論はできると思う。
- ・ハード面の情報整理とソフト面の情報整理をした地域カルテを作り、各地域でワークショップするといった方法もあると思う。ただ、コロナ禍といった状況でこの方法が正しいか断定はできない。
- ・ハード面の進捗状況は関心が高い話だと思う。小学校跡地やリニア、先ほどのスーパーの跡地などの進捗が地図上で分かるようにすれば良いと思う。

(久教授)

- ・事業者は地域がどう考えているのかを見ている。ビジョンを作っている地域は、地域の思いを尊重する必要があると判断される。もっと言うと地域が事業者に対して反対する時にビジョンを根拠にすることができる。
- ・地域が一丸となっていること程、事業者の怖いものはない。何かが起こったときに地域全体が同じ方向を見て、同じ話ができるようにするのがビジョンだと思う。
- ・部会員も述べられているが、計画を策定した後でも必要なことは追加しても良いと思う。

久教授のアドバイス要旨

- ・事務局からの情報提供は地域から言われてからではなく、積極的にして欲しい。
- ・おおさか東線が開通して、非常に便利になったと感じる。駅ができて終わりではなく、人の流れも変わってきている。そこから見えてくるものもあると思う。
- ・電車や車のルートがこの5、6年で変わり、地域も大きく変わってきている。元々、迷路みたいで入り難かった地域が入り易い地域になったことで、地域外の人間の視点も変わってくる可能性がある。
- ・駅や道路といった施設ができてから考えるのではなく、地域のここが変わると想像し、変わって欲しくないところはビジョンで押さえておく必要がある。そういったことも部会員と検討したいので、基礎データを事務局から出して欲しいと思う。
- ・ある区の社団法人が地域接種を行ったことを紹介したい。
- ・元々は区役所が地域のことを考えるためのワークショップや懇談会を運営していたが、地域でまちづくりを続けるために作られた社団法人である。その社団法人のメンバーには、不動産業、建築業に就いている人もいるので空き家活用について、その社団法人が中心になって動かそうとしている。
- ・メンバーの医者が中心となり打ち手を集め、事務局は他のメンバーで手分けして、地域の集会所を借りて、と話がテンポよく進み実施に至ったようである。
- ・近畿大学でも地域接種も始めている。なぜ大学の話をしたかという、他の大学から協力して欲しいと相談を受けたからである。他の大学への協力の実施には至らなかったが、日頃からもっと交流があれば手伝いに行こう、助けに行こうとなったと思う。これは地域でも同じ話で、用事があるときだけ手伝って欲しいではなく、普段から交流をしておこうという話である。

4. その他（意見交換）

（事務局）

- ・情報収集を行いきる限りこの場で提供をさせて頂こうと思う。
- ・6月に実施したリモート会議に向けたオンライン環境調査の集計結果をとりまとめたので確認願う。次回部会にて改めて説明させて頂く。
- ・今回の部会の座席形式についてはいかがか。

（部会員）

- ・作業にもよるが、テーブルは欲しいと感じた。
- ・コロナへの対応として、大きな会議室で距離を取って行う座席形式の会議はやりにくい印象がある。密を避けることとのバランスが難しいと思う。他の地域ではどのようにしているのか気になる。

（久教授）

- ・パーティションがあれば密でも問題ないと思う。自作している地域もある。

（部会員）

- ・地域内で話合いの場が少なくなっているため、話し合いの場が必要だと機運が高まってきている部分もある。しかし、これまでのような形式でのワークショップは難しいと感じている。コンサルタ

ントではどう対応しているのか。

(事務局)

- ・会議をする場合はパーティションを設けるようにしている。地域から話を聞く場合は、可能ならリモート会議を実施するようにしている。地域側にオンライン環境がない場合は役所に伺って貰い、役所の会議室と弊社の会議室間でリモート会議を実施するようにしている。また、在宅勤務をしているものは自宅からの参加などを行い、なるべく接触の機会を減らすといった対応をしている。

(部会員)

- ・これからはオンラインの会議のような、やりやすい形を考えていくべきだと感じた。

(事務局)

- ・次の部会の参考にさせていただく。最後に、久先生からアドバイス等ないでしょうか。

(久教授)

- ・大学の学生もオンラインの講義に慣れてきたのか、オンラインでの受講率が高くなってきている。
- ・構想部会の進め方は、最初に情報交換を行ってから他の議題に入る形式が良いように思う。情報交換が盛り上がり時間一杯使うことがあっても良い。

5. 閉会

- ・次回の部会は9月9日午後7時から出張所3階多目的室で開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第34回部会）議事概要

日時：令和3年11月11日（木）午後7時～午後8時20分
場所：東淀川区役所出張所3階多目的室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長代理あいさつ
- 3 議題
 - (1) 今年度の進め方について
 - (2) 情報提供
 - (3) 活動報告及び意見交換
 - (4) その他
- 4 その他
- 5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 資料-1 「今年度のまちづくり構想部会の進め方」について
- ・ 資料-2 第5回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会
会議資料（抜粋）
- ・ 資料-3 「柴島浄水場上系配水池上部空間」の有効活用に関する
マーケットサウンディング（市場調査）
- ・ 資料-4 バリアフリーマップ
- ・ 資料-5 活動報告

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) 今年度の進め方について

(事務局)

- ・今年度の部会の進め方について、9月の部会は書面での開催だったため、今回同じ資料を配付し改めて説明させていただく。
- ・7月の部会ではアクションプラン作成のための議題自体を部会で議論するのは難しい、また、作成に向けてのスケジュール、目標が明確ではないという意見があった。
- ・そこでスケジュール、目標を明確にするためにアクションプランの作成について、3つの目標を事務局で設定した。まず「1. 意見収集の環境づくり」である。地域の住民とアクションプランの作成に向けた情報の共有、意見の収集方法の検討を最初に行う。
- ・次に「2. 地域活動の整理」である。地域活動を整理するテーマを検討し、「実施中」、「休止中」、「再開したい」という活動の状況を確認し、アクションプランでの目標時期である短期・中期・長期の振り分けを行う。また、これまでの活動の整理後、将来やりたいこと、将来目標を検討して頂きたい。
- ・最後に「3. アクションプランの作成」である。目標2で整理した内容と地域の将来像の検討を行っていただき、アクションプランとして取りまとめていただく。地域の将来像の検討は既に保健福

祉計画を作成されている地域を参考にさせていただきたい。また、地域の特徴や地域のこを良くしたいといった各地域個別の内容も整理して貰いたい。人口統計の基礎データなどの収集は事務局が協力させていただく。

- ・この3つの目標をクリアすることでアクションプランの作成に繋がると考えている。しかし、この3つの目標を今年度中に必ずしもやり遂げられるとは考えていない。各地域の状況に応じて進めていただければと思う。

(2) 情報提供

(事務局)

- ・今年 8 月に新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議が開催されたので、資料を情報として提供する。新大阪駅の3つの機能（交通結節機能、交流促進機能、都市空間機能）について整理がされている。また、新大阪駅周辺地域の都市機能の集積イメージや民間都市開発の誘導のイメージが示されている。会議の中では土地を高層化せずにも有効的に活用できるような開発ができないかという意見も出ていた。この会議には東淀川区役所区長もオブザーバーとして入っており、地域のまちづくりの視点も踏まえて活用していただきたいと意見を述べていたことをお伝えしておく。
- ・柴島浄水場上系配水池上部空間の有効活用に関するマーケットサウンディングを行うと報道発表がされたので、その実施要領を情報として提供する。来年3月に実施結果の公表もされる予定である。
- ・新大阪地区バリアフリーマップが作成されたので、情報として提供する。バリアフリー法の平成30年の改正を受け、市町村が情報の収集、提示、提供を行うことが義務付けられた。大阪市都市計画局が地域の自立支援協議会の協力を得て、今年9月に作成し、公表されたものである。新大阪地区バリアフリーマップについては、東淀川区役所のホームページでも掲載しているので地域の方とも共有していただければと思う。

(3) 活動報告及び意見交換

意見交換要旨

【部会の進め方について】

- ・構想部会で出た話や中央リニア新幹線といった事業について、地図上で場所や大きさ、履歴といった情報を可視化したい。

【地域の活動状況】

東淀路・柴島地域

- ・緊急事態宣言下でもやり方を工夫し、食事サービスだけは実施していた。緊急事態宣言が解除されてからは、ふれあい喫茶とカラオケ以外の行事を順次再開し始めている。
- ・冬のクリスマスイベントについては開催の有無や規模について検討している。
- ・未来の街を考えるとという授業で子どもたちに地域のことを考えて貰っている。地活協として授業に協力するのは初めてである。

新庄地域

- ・駅前清掃などの野外での活動は再開している。屋内での活動は未だ再開していない状況である。車を使用するパトロール活動も念のため自粛している。
- ・配食サービスは安否確認の必要もあるため緊急事態宣言下でも続けていた。

- ・運動会は開催されるが、学年別などこれまでと形式を変えて行うと聞いている。
- ・地域のスーパーの解体工事が始まった。工事期間は今年 11 月 1 日から 1 年間の予定である。
- ・団地の跡地に小学校のグラウンドが建設される。供用開始が 1 年前倒しになって令和 4 年 4 月になった。このグラウンドには日除け用のテントを地活協から提供する予定である。
- ・新庄地域では地域の広報誌にこの部会で聞いたことを載せていくといったやり方で啓発するしかないと思っている。

下新庄地域

- ・運動会は平日開催されたが、スポーツテストのような雰囲気だった。
- ・11 月から屋内での活動も再開している。コーラスも全員が前を向くなど工夫して行っている。社交ダンスといった接触がある活動については再開していない。
- ・活動のペースはコロナ禍以前の半分程度で、誓約書を提出して貰った上で再開している。

淡路地域

- ・他の地域と同様にやりたい活動はやるといったように緩やかに再開しているようである。各活動で中心となっている人たちが、活動を動かしている状況である。
- ・お祭りを開催するための役員会といった会議は開催が難しい状況である。夏祭りの代わりに行うクリスマスイベントのための会議がようやく行われるといった状況である。

啓発地域

- ・ボランティアで協力してくれる方の年齢層が高くなり夏場での設営は大変なので、夏祭りを秋祭りに変更して開催する予定である。
- ・啓発地域では町会長（地活協会長も兼務）が数年前から町会長会議のことを地域連絡会へと名前を変え、地活協の関係者も出席できるようにし意見交換も行う場へと変わった。

【アクションプランについて】

- ・各地域で会議自体の開催が減っているので、地域内でアクションプランの作成を進めることが難しい状況である。これまではアクションプランを主題とした会議を地域で開催するのは地域の負担になると考えていたが、現状を考えるとアクションプランを主題とした会議を設ける必要があるかもしれない。
- ・コロナ禍が事業を見直すきっかけになったと思う。休止したままの事業もあれば、食事サービスのように必要だからとコロナ禍でも続けている事業もある。各事業に対するニーズが分かったのはいい経験になった。
- ・地域の方はまちづくりビジョンが出来てからの流れを知らない人も多いと思われる。アクションプラン作成という目標を地域に浸透させるため、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会のこれまでの活動報告会を地域に向けて行うのはどうか。報告会を開催するために部会員が地域と調整しても良いと思う。活動を報告する場がないので、報告会は一回設けて頂く方が参加している部会員としてもありがたい。
- ・地域との情報共有会のようなイベントを設けて説明する機会がないと動けないのではないだろうか。

久教授のアドバイス要旨

- ・柴島、東淡路地域の話は、おそらく昨年からの学習指導要領が変わり、考える力を身に着ける一環で、ほかの小学校でも始まっているかもしれない。
- ・部会員の発言からもコロナ禍は地域活動のやり方を見直す、良いきっかけになっているように思う。役員会を行わなくても事業が動いているのなら、これからも役員会を行わなくてもいいのではないか、何のための役員会なのかと振り返る機会になるのではないかと。他にも多くの会議があるのなら年間に1、2回、報告会のような役員会で良いかも知れないし、もっと違う役割があるのなら他の形を考えても良いかもしれない。
- ・啓発地域の話は同じように夏祭りを秋祭りにしようと動かした地域がある。何十年と夏に開催していたから、夏に開催しないといけないという思い込みが、秋にやると準備も楽で良かったと聞いている。しかし、この話を伝えて他の行事をずらさないと玉突き状態で行事を動かすことができないと言われた地域もある。今回、啓発地域では他の行事が休止中だったので、スムーズに動かせる可能性もある。
- ・色々な行事が止まっている今のタイミングは、それぞれの行事がこれからも必要なのかこの時期で良いのかということも見直す良い機会になると思う。

4. その他（意見交換）

（事務局）

- ・コロナ禍は未だ続いており、進め方について事務局でも方法を模索していた。各地域に一度、説明には行きたいと考えていたが、頂いた意見や各地域の状況を踏まえて、会議の開催などについて検討したい。
- ・地域の基本情報については、平成30年第19回構想部会の際に整理された資料を令和2年度の国勢調査の結果を反映し更新する予定である。調査の結果は11月末に公表されるので、確認次第作業に取り掛かる。資料に記載したいデータ等あれば事務局まで問合せ願う。

5. 閉会

- ・次回の部会は令和4年1月13日午後7時から出張所3階多目的室で開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第35回部会）議事概要

日時：令和4年1月13日（木）午後7時～午後8時15分

場所：東淀川区役所出張所3階多目的室

【議事】

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議題

(1) 活動報告及び意見交換

(2) その他（意見交換）

4 その他

5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 資料-1 構想部会ニュース（案）
- ・ 資料-2 地域のつぶやきの整理
- ・ 資料-3 活動報告

1. 開会

（事務局 東淀川区役所 安達係長）

2. 部会長あいさつ

（部会長）

- ・もと西淡路小学校跡地検討協議が昨日開催され、私と部会員が出席している。元々売却が前提だった土地の話が、地域の意見を聞きながら活用を含めて検討したいと区役所の姿勢が見られたので、現場で取り組んできた結果だと考えている。また、意見交換の場で情報共有したいと思う。

3. 議題

(1) 活動報告及び意見交換

（事務局）

- ・構想部会は地域で実際に活動している方々が集まる数少ない場であると久教授から意見を頂いている。この貴重な会議の場で西部地域内の情報を共有頂き、各々の地活協にてその情報を活かして貰いたい。前回の構想部会にて地域の出来事等の情報を可視化したいと意見がありましたので、大判の地図を用意した。

（事務局）

- ・東淀川区西部地域が一覧できる地図を用いて情報共有・意見交換を行った。

（事務局）

- ・久教授アドバイス等ありましたら、お願いいたします。

（久教授）

- ・地域の状況を可視化しつつ、次は地域の特徴を抽出できれば良いと思う。なぜ、集合住宅が集まっているのかといったポイントを分析できればと思う。今昔 map というホームページで昔の地図が閲覧できる、歴史と重ねながら意見交換することで、新たな発見ができる可能性がある。

(事務局)

- ・昨年度のアンケートの結果や前回の構想部会での意見を踏まえ、これまでの経過を簡単に「資料-1 構想部会ニュース(案)」として整理を行いました。他にこのような情報を載せて欲しいといった要望がありましたらお願いします。

(部会員)

- ・アクションプランの作成についてももう少し説明ができるようにして頂ければ良いと思う。

(部会長)

- ・構想部会の活動は、「各地域の情報交換」、「各地域のアクションプランの作成」の2つが主な活動だと思っている。まちづくりに終わりはないので構想部会も1年後、2年後に終わるといったものではないと思っている。
- ・昨日のもと西淡路小学校跡地検討会議の報告をお願いします。

(部会員)

- ・もと西淡路小学校跡地検討会議の中で、西部地域バリアフリーまちづくり構想のテーマから優先度の高いテーマを決めた上で新たな施設のテーマを検討するといった話になっています。開発を進めていく中で西部地域バリアフリーまちづくり構想を地域でオーソライズされたものとして、大阪市や東淀川区も認識していることを感じた。先ほどのニュースの素案に西部地域バリアフリーまちづくり構想が、ツールとして活用されていることを表現して貰えば、分かり易くなるように思う。

(久教授)

- ・今の話は2段階になっていて、「大きな開発、動きに対して地域にはこういう構想がありますとアピールする役割」と「身近な日頃の活動から地域をより魅力的にするにはどうすればいいのかを示す役割」、この2つが整理できると分かり易くなると思う。
- ・他の区の小学校統廃合では、地域と数年かけて、生涯学習が継続して行えることや元々グラウンドだったところには建物を作らないといった条件が整理され、元々小学校が地域に対して持っていた機能を残しながら新たに活用するといった方向性が見えている。地域住民が参加し学校再編のビジョンを作ったから出来たことだと思う。
- ・もと西淡路小学校跡地検討会議の場合でも一つ一つの要望ではなくて地域全体の大きなビジョンがあったから出来たことであり、西部地域バリアフリーまちづくり構想があるから営利目的だけで民間に売却して欲しくないと言信ができていると思う。このような具体的な役割をニュースとして地域に発信して貰えたらと思う。

(事務局)

- ・頂いた意見をベースに修正しながら、引き続き意見交換できればと思う。
- ・前回の部会で意見交換内容をつぶやきとして集めれば、各地域内で活用できるのではないかと意見がありましたので、「資料-2 地域のつぶやきの整理」を作成しました。整理については「1. 西部地域バリアフリーまちづくり構想のテーマ別に整理した固めのイメージ」と「2. 発言をテーマ等でまとめずに雲として並べた柔らかいイメージ」の2パターンで作成している。

(部会員)

- ・意見交換の内容が可視化され大体イメージ通りに作ってもらえているが、今のオミクロン株が拡大

している状況で地域に発信することが難しい。

- ・2つ目のイメージで各構想部会の内容をまとめて、地域住民には紙媒体で見て貰う方が良いように思う。

(久教授)

- ・2つのイメージの折衷案で、雲の色で西部地域バリアフリーまちづくり構想のテーマが分かるように整理しても良いように思う。

(事務局)

- ・どこの地域が発信したかということは分かった方が良いか。

(部会員)

- ・ニュースを見た人がどこの地域か知りたくなれば個別で教えれば良いと思う。

(久教授)

- ・別の会議の場で、A学校では出来ない活動がB学校では出来ることを先生同士が共有したことで、A学校では新たな活動を行うための突破口が開かれた。
- ・自分の地域の常識が他の地域では常識ではないという事は多々ある。日頃の活動や悩みを共有するだけで問題が解決する可能性があるので、積極的に意見交換して貰えればと思う。色々な話題を共有することが重要です。
- ・地域が元気になるような情報を共有する話題を忘れないようにSNSを使うことも良いように思います。

4. その他（意見交換）

- ・特になし。

5. 閉会

- ・次回の部会は3月10日協議会終了後、東淀川区役所3階区民ホールで開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会(第5回新大阪駅東口まちづくり部会) 議事概要

日 時：令和3年12月23日(木) 午後7時～午後8時 場 所：東淀川区役所3階区民ホール
【議事】 1 開会・部会長挨拶 2 議題 (1) まちづくりビジョンの検討について (2) その他 3 閉会 <<配付資料>> ・ 議事次第 ・ 座席配置図 ・ 第5回新大阪駅東口まちづくり部会資料 ・ 新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討「概要版」

1. 開会・部会長挨拶

2. 議題

(1) まちづくりビジョンの検討について

(事務局)

- ・これまでの部会での意見のまとめ、東淀川区西部地域バリアフリー構想や保健福祉計画、都市再生緊急整備地域検討協議会での検討の内容を示し、まちづくりの基本的な考え方としてまとめた。
- ・新大阪駅東口のまちづくりを検討する上で、東淀川区西部地域バリアフリー構想で掲げられた「ひとにやさしいまちづくり」と「玄関口にふさわしいまちづくり」の2つの視点が両輪となって東口のまちづくりを進めるそれが、東淀川区西部地域バリアフリー構想の実現に向けた取組みの基本的な考え方であると考えている。
- ・この考え方を基本に地域と一体的なまちづくりとを実現する上で、東淀川区西部地域の先導となるまちづくりの検討範囲そして核となる拠点エリアのまちづくりのイメージとその波及効果をまちづくりの進め方としてまとめた。
- ・まちづくりの検討範囲は、当初からご説明しておりますとおり、新大阪駅東口から概ね500mの範囲で、道路等で囲まれた範囲を中心としている。
- ・市営住宅の建替えに伴う余剰地が、開発効果を周辺部へ波及させる核となる拠点エリアの一つとなりうると考えている。また、余剰地の範囲の案を3案示す。
- ・まちづくりの進め方については、短い時間での面的な大規模開発ではなく、拠点エリアの開発誘導により地域と一体的に、緩やかに進めるまちづくりが適切であると考えている。今ある住民の生活や生活環境などの既存施設との共存を図りながら、既存施設の機能更新や建替え、用途変更などによる緩やかな開発により新たな人の交流や賑わいの創出が進めばと考えている。
- ・このまちづくりの進め方としては、土地地権者、地域の方々、行政が同じ方向に向って取り組むことができるよう考え方をまとめていく必要がある。
- ・まちづくりの考え方、進め方について質問や意見を頂ければと思う。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし。

(部会長)

- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・緩やかにまちづくりを進めていく考え方は、私は良いことだと思う。
- ・ビジョンの検討範囲内に点在している処分検討地や公営住宅の余剰地等の中で重点的に事業が動いていくことになると思う。事業自体は土地毎に別々に動いていくと思うが、事業の内容も完全に別々のものになっては全体の調和がとれないので、全体として1つのストーリー、方針に沿って事業を進めていくために引き続きビジョンを検討して貰いたい。

(事務局)

- ・ビジョンの検討では3つの柱を基本に組み立てており、一つ目に東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取組みとして、「地域の人々が生活し活動する共生社会」とし、地域に住む人々の生活に根差した持続可能なまちづくりを掲げている。
- ・二つ目に都市再生の動きを活用したまちづくりとして、「多様な人々が活躍する大阪の玄関口」とし、地域の活性化の促進、新たな働き方と日常生活を掲げております
- ・最後に人とまちをつなぐ幹線道路沿線にふさわしいまちづくりとして、「地域とつながり全国へとつながる」とし、交通至便なアクセス性により利便性の向上と人の交流を促進する内容を掲げている。
- ・これら3つの柱をまちづくりの方向性として取りまとめ、それぞれの柱が一体化することで人にやさしく、そして大阪の玄関口に相応しい東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた、新大阪駅東口のまちづくりとして示しています。
- ・以上、事務局からの説明とさせていただきます。

(意見、質疑応答等)

(部会員)

- ・第2回新大阪駅東口まちづくり部会で確認された3つテーマ（大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり、人権を尊重する人にやさしいまちづくり、駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり）が具体化されたものが、「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」という2つの基本的な考え方だと思う。しかし、この具体化する時に人権を尊重するというテーマが抜けているのではないか。
- ・これまで通り特別対策で部落問題の解決をするのではなく、一般対策の取り組みの中で部落問題の解決をしていこうという流れで、新大阪駅東口まちづくり部会が取り組まれていると認識しておりますが部会長よろしいですか。

(部会長)

- ・はい。

(部会員)

- ・具体化するところで「人権を尊重する」という言葉を記載して頂きたい。

- ・まちづくりの方向性のまとめで示されている「地域との共生」という言葉の意味の説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・「地域との共生」という言葉は、まちづくりの方向性の一つである「地域の人々が生活し活動する共生社会」とその中での取り組みを集約し、「地域との共生」と表現をしている。また、「緩やかな開発」とも表現をしておりますが、地域の人を置いてけぼりにするのではなく、地域の人の生活の場がベースにまちが良くなっていくというメッセージも込めて「地域との共生」をまちづくりの目標の1つに設定した。

(部会員)

- ・「地域との共生」という言葉ではまちづくりの方向性としては、抽象的な表現になっているように思う。
- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容も尊重すべきであると思うが、そちらの検討内容に引っ張られているように思う。新大阪駅東口まちづくりビジョンは東淀川区の計画であり、先ほども述べましたが部落問題の解決を一般対策で取り組もうといった背景もあり、東淀川区の目線で作っていただきたいと思う。

(部会長)

- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会については、まだ時間を要すると思う。むしろ引っ張られるのではなく、本部会で作成した内容を具現化できるようにアピールしこちらから働きかける姿勢が必要だと思っている。

(部会員)

- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容を否定するつもりはない。ただ、現状の「地域との共生」や「にぎわいと交流」という言葉で留めずに「同和地区と周辺地区との交流で差別意識の解消」や「交流を深めることで被差別部落を解放」と具体的に活字として表現をして貰いたい。

(部会長)

- ・資料に示している「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」を集約して「地域との共生」と表現したつもりです。

(久教授)

- ・委員の方は「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」がどのように具体化されるのかということを指摘していると思う。
- ・個人的な意見だが、大阪市内には人権センターといった様々な施設があり、人権・啓発の拠点として地域の方々が主体的に保ってきたと思っている。しかし、そういった拠点が段々と閉鎖をしている。
- ・これからできていく新しい施設の中には、人権・啓発の拠点の機能も併せ持つような施設もあり、その施設の運営に地域の人々も積極的に関わっていくようになれば施設が閉鎖していったという流れから新しい拠点機能ができてくると思います。

- ・他の自治体ですが、人権センターではなく地域総合センターと表現している事例があります。しかし、大きな柱の一つとして人権・啓発の拠点の機能を持っています。
- ・日之出地区の方々が一つの柱となりつつ、周辺地区の方々も一緒に機能を盛り上げる、また、その交流が広がっていくような拠点施設が出てくればと思う。その思いは、「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」から読み取れるように思う。そのため、施設の機能を具体化するのには次のステップではないかと思う。

(部会員)

- ・これまでの議論がきちんとビジョンに反映されていることが分かるように工夫をして表現して貰いたい。例えば、先ほど仰っておられた「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」の部分に「部落解放による人権」という文言を足して貰えれば分かり易くなると思う。
- ・久教授が仰っていた機能の具体化をするのには次のステップという事については私も賛成である。但し、地元が議論に参加できようにして頂きたい。

(部会長)

- ・我々も部落差別という文言を使いたくないと云った思いはない。表現につきましては一度持ち帰り、検討させて頂ければと思う。本日の部会で内容を決定するわけではない。
- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・同和問題は大きな柱の一つになってくるとは思うが、昨今の人権問題は多様化してきておりターゲットを広げる必要がある。一方で、日之出会がまちづくりを続けてきた伝統も重々理解をしている。その伝統の延長上に今のまちづくりがあるということを経緯等で表現して貰いたい。

(部会長)

- ・ありがとうございます
- ・最後に、今後の進め方について、事務局に説明をお願いします。

(事務局)

- ・まちづくりの方向性については、区役所HPへ掲載することで広く市民の方に周知を図り、地域住民の皆さんをはじめ、新大阪駅を利用される方々を対象としたアンケートを実施する予定である。
- ・アンケートでは、この土地でどのような土地利用を望むのかという点についても、市民の皆さんのアイデアなり、意見を頂きたいと考えている。アンケート終了後に本日いただいたご意見やアンケート結果を踏まえた、東口のまちづくりビジョンを取りまとめ、次回部会を開催したいと考えている。
- ・来年度については、ビジョンを具体化するための検討を行い、ビジョンに沿った土地利用が進む、拠点エリアの民間活用についての検討を進めていきたいと考えている。

(意見、質疑応答等)

(部会員)

- ・アンケートはどのような仕組みで行うのですか。また、パブリックコメントとの違いはあるのでしょうか。
- ・拠点エリアの民間活用の内容が新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容に引っ張られているように感じます。本部会や東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会の内容を踏まえるべきではないでしょうか。

(部会長)

- ・まず、アンケートにつきまして回答する。パブリックコメントに代わるものというわけではないし、縛られるものではない。最終的にはパブリックコメントを経て進めていきたいと思っている。
- ・拠点エリアの民間活用の例示ですが、新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容を羅列しているわけではありません。あくまで、事例として挙げている。

(部会員)

- ・従前居住者が大切にしてきた子育てや高齢者の居住といった言葉がないので、本部会や東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会での議論が反映されてないように思う。事例を挙げるのであれば、これまでの議論を踏まえた内容にして貰いたい。
- ・地域との議論を行った上でアンケートやパブリックコメントという流れだと思っているのだが、地域との議論は続けて貰えるのか。

(部会長)

- ・地域との議論は引き続き行います。パブリックコメントはビジョン案が完成した段階で実施する必要はあると考えている。アンケートは現時点の段階で、十三や淡路も含めた広い範囲で意見を募集したく実施するものである。
- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・拠点エリアの民間活用の内容ですが、文字だけでは内容が伝わり難いように思う。説明文を書き加えることや他都市の事例や写真を付ける等する必要があると思う。
- ・スタートアップ企業という文言があるが家賃が高い所ではスタートアップはできない。そこで、淡路地域周辺の低廉な家賃という特徴が生きてくると思う。
- ・拠点エリアにスタートアップ企業が生まれ、起業家が淡路地域で暮らすといった流れができると、新しい機能と従来のまちが繋がってくるように思う。そうした関係性を表現できていないと新しいものばかりが入ってくるように印象になってしまうので、イメージを共有化できるように示していただきたい。

3. 閉会

(部会長)

- ・部会員の皆様のご意見をこのまちづくりビジョンに反映させるよう努めてまいります。次回の開催については、2月の開催を念頭に、事務局で進めていただく。

(事務局)

- ・ 次回の部会開催は、事務局より改めて、ご連絡をさせていただきます。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会(第6回新大阪駅東口まちづくり部会)
議事概要

日 時：令和4年2月24日(木)午後7時～午後7時30分まで

場 所：東淀川区役所出張所3階多目的室 ※Web会議を併用

【議事】

1 開会・部会長挨拶

2 議題

- (1) 新大阪駅東口まちづくりの考え方・アンケート結果について
- (2) 新大阪駅東口まちづくりの考え方～まちづくりビジョン検討案～について
- (3) 今後の進め方について
- (4) その他

3 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 資料1 アンケート資料
- ・ 資料2 新大阪駅東口まちづくりの考え方・アンケート結果
- ・ 資料3 新大阪駅東口まちづくりの考え方【対比表】
- ・ 資料4 新大阪駅東口まちづくりの考え方～まちづくりビジョン検討案～
- ・ 資料5 今後の進め方について

1. 開会・部会長挨拶

2. 議題

(1) 新大阪駅東口まちづくりの考え方・アンケート結果について

(事務局)

- ・ アンケート資料(資料1)は昨年12月に開催した部会資料を基本として作成した。また、これまでの議論を反映し、新大阪駅東口地域の歴史についての資料を追加し、誰が見ても内容を理解していただけるようできる限り判り易い表現に改め、説明を書き加えている。
- ・ アンケートは大阪市行政オンラインシステムで実施した。実施期間は1月28日から2月13日までの17日間で、まちづくりの考え方を閲覧いただけるよう、資料1を添付した。また、幅広く意見を求めるため、対象者については、限定せずに実施した。
- ・ アンケートの設問内容は簡潔にまとめ、システムへの個人情報の登録を利用しない手法を採用し、スマートフォンでも手間をかけずに回答できる方法を採用した。
- ・ 設問内容は①回答者の年齢と居住地、②新大阪駅の利用頻度とその主な目的、③まちづくりの3つのテーマが示す目標、目指すべき姿について、④まちづくりの考え方全般についての意見、⑤新大阪駅東口にあったらいいなと思う施設や機能を設問と設定した。①～③は選択式、④は自由意見、⑤は複数選択式とした。
- ・ アンケートの周知は、①区役所HPやSNSを活用し情報発信するとともに、②区役所や出張所、青少年センター、また、JR西日本の協力を得てアンケートの案内チラシを配架させていただいた。
- ・ 回答者の総数は、87件と多く方の回答を得た。居住地については、回答者の多くは東淀川区内となり、区内の地域別集計では、検討範囲に近接する東中島、淡路、西淡路の住民の方からの回答が約半数となった。

- ・回答者の新大阪駅の利用頻度や目的としては、最寄り駅としての利用者が多かった。
- ・まちづくりの考え方に対する主な3つ意見とその対応をまとめた。主な意見として1つはまちの現状について、2つ目はまちづくりのイメージについて、3つ目はまちづくり検討の進め方についてであった。
- ・多くの意見があったので、一例とその対応について紹介する。まちの現状については、「さびれた雰囲気や暗いイメージがある」という意見に対して、「地域の活性化を図り、にぎわいと交流を目指したまちづくりを検討している」という見解を示している。
- ・二つ目のまちづくりのイメージについては、「地域や新大阪を訪れる人々がつい立ち寄りたくなるような、明るく魅力的な街にして欲しい」という意見に対して、「玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場を検討しています」としている。
- ・三つ目のまちづくり検討の進め方については「確実な実施が地域の活性化のために重要と考えます」という意見に対して、「着実に検討を進め、実行に移すことが重要」との考え方を示している。また、「全国へ発信するのではなく全国から人を受け入れる懐の深さを表現したら」との意見に対しては「【全国へ】の表現が一方的でしたので【全国と】に修正し双方向のつながりを表現する」としている。
- ・最後に、駅東口にあつたらいいなと思う施設（機能）については、オフィス／商業施設が3割を占め、次いで遊興・娯楽施設、学校等の文教施設となった。

(意見、質疑応答等)

(部会員)

- ・アンケートの回答数は「87」とありましたが、この数字は多いものなのか。

(事務局)

- ・アンケートの回答数について多いか少ないかにつきまして、難しい扱いになるが、西部地域バリアフリーまちづくり構想策定時に実施したパブリックコメントでは寄せられた意見が1桁だった実績を踏まえると、多かったという印象である。また、今回は千差万別、色々な意見が多く、色々な方々から意見を頂けたと思っている。

(部会員)

- ・行政の見解については、ホームページ等で公開しているのか。

(事務局)

- ・本部会での説明が初出で、行政の回答は頂いた意見に対してこのように対応できるのではないかと案として示している。

(部会長)

- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・このアンケート結果を踏まえて、どのように反映したのかは事務局から説明があると思う。

- ・地域からの質問の補足だが、回答者の属性の年代別の箇所を見ると今回のアンケートの特徴が表れていると思う。回答者の割合で30代、40代という比較的若い世代の回答が多いのは、ネットを使ったアンケートの特徴である。ビジョンにしっかりと、活用して貰いたい。

(2) 新大阪駅東口まちづくりの考え方～まちづくりビジョン検討案～ について

(事務局)

- ・アンケート結果のまちづくりの考え方への修正内容について、資料内の「地域とつながり全国へつながる」としていたタイトルについて、「全国へ発信するのではなく、全国から人を受け入れる懐の深さを表現したら」との意見をいただいた。事務局としては「全国へ」の表現が一方的だったので、「全国と」に修正し、「全国から」「全国へ」の双方向のつながりを表現に改めた。
- ・次に、未利用地の活用方策について、民間活力を活用する内容の記述が漏れていたもので、誤解のないようそれぞれの項に書き加えた。
- ・以上を反映した新大阪駅東口まちづくりの考え方～まちづくりビジョン検討案～を資料4として配付し、修正箇所については朱書きで示している。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし

(事務局)

- ・久教授の先ほどのアンケートをどのように活用したのかについて、補足する。アンケートで具体的にどのような施設が欲しいのか等の意見については、今回の「まちづくりの考え方」を修正し、次の検討の段階で活用したいと考えている。

(部会長)

- ・久教授、只今の補足も含めてアドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・地域の方々の意見は特に重要だと思っている。まちづくりの考え方については、特に意見が無いということなので、大きな方向としてはこのまま進めて貰えればと思う。先ほどの補足で述べられていたように、次の段階で様々な主体の方々がどのような形で進めていけるのか時間をかけて検討して貰いたい。

(3) 今後の進め方について

(事務局)

- ・今回、確認したまちづくりの考え方に沿ったまちづくりの実現に向けて、検討対象用地の活用方策の検討、新大阪駅東口まちづくり基本計画の検討、パブリックコメントの実施を進めていきたいと考えている

(質疑応答)

- ・特になし

(4) その他

- ・特になし

(部会長)

- ・特に意見がないようなので、閉会に進めたいと思う。本日、新大阪駅東口のまちづくりビジョンに向けた今後の進め方について確認をいただいた。また、北陸新幹線やリニア中央新幹線計画の具体化などのタイミングを踏まえてビジョンを更新し、状況に応じたまちづくりを進めていく必要があると考えている。
- ・今後、まちづくりの考え方に沿って、検討対象用地の活用方策の検討や、まちづくり基本計画の検討などを経て、パブリックコメントを実施し、まちづくりビジョンの具体化に向けて、部会員の方の意見をいただきながら検討を進めていきたいと思っている、ご理解のほどお願いしたい。

3. 閉会

(事務局)

- ・次回の部会開催は、事務局より改めて、連絡を差し上げる。

以上